

# 96.7兆円予算案閣議決定

## 来年度、過去最大を更新

政府は24日、一般会計の総額を96兆7218億円とする2016年度の当初予算案を閣議決定した。高齢化で年金や医療など社会保障費が膨らみ、4年連続で過去最大を更新する。企業業績の回復などで税収が増え、新たな借金となる新規国債の発行額は減らす。一方で、来年の参院選をにらんだ「バラマキ」も目立ち、膨らみ続ける予算に歯止めはかかっている。

予算の3分の1超を借金に頼る状況は変わらず、国の債務残高は16年度末に今年度末より26兆円増の838兆円に達する見通しだ。

3面Ⅱ「総活躍」関連増額  
6面Ⅱ財政健全化道険し  
9面Ⅱくらしどうなる  
14面Ⅱ社説

歳出規模は10年前の06年度より2割増えた。高齢者が増えることで、年金や医療、介護サービスの利用が増えているためだ。社会保障費は今年度当初より1.4%増の31兆9738億円で、過去最大となった。

財政健全化計画の初年度に当たる16年度は、歳出の約3分の1を占める社会保障費の伸びを5千億円以内に抑えることが焦点のひとつだった。医療サービスの

公定価格である診療報酬を8年ぶりにマイナス改定にするなどして、その「目安」は達成したが、低所得の子育て世帯や高齢者の支援策などを新たに盛り込み、全体では膨らんだ。

税収は、基幹税である法人、所得、消費税がいずれも伸び、5.6%増の57兆6040億円を見込む。新規国債の発行額は6.6%減らし、34兆4320億円とした。ただ、税収は16年度の成長率見通し(名目3.1%、実質1.7%)を前提にしており、世界経済の動向次第で影響を受ける可能性がある。(奈良部健)